

代役

中野
劇団

代役（試し読み用）

作・中野 守（中野劇団）

登場人物

水沢零

(20)

朋彦の長女。壱の姉。

水沢壱

(18)

朋彦の長男。零の弟。

浦添正直

(43)

水沢家の家族同様の人物。

水沢朋彦

(43)

零と壱の父。
龍田の元担任教師兼顧問。

岩坂琴音

(32)

壱のバイト先の後輩。

龍田忠敬

(32)

朋彦の元教え子。

津名真夜

(35)

朋彦の学校の後輩教員兼交際相手。

穴井惺

(45)

朋彦の姉。

謎川

(21)

水沢真希菜（A）

舞台は水沢家のダイニングリビング。舞台向かって左側にダイニングテーブルセット、右側にリビングテーブルセット。部屋に出入口は二箇所あり、向かって左側の出入口からはキッチン、風呂、トイレに繋がっており、庭へはこちらからも出られる。右側には玄関と二階への階段がある。

1 零、浦添

水沢家のリビング。

リビングには白衣を纏った浦添正直と部屋着の水沢零。零の手にはクロスワードパズルの雑誌。浦添、草履を鞆に突っ込んでいる。

浦添 暑う。今日は暑いねえ。ごめんね、遅くなって。暑いねえ。

零 すいません、急に呼んで。

浦添 で？

零 お母さんがちょっとおかしいみたいで。

浦添

真希菜さんが？

零

みてほしいんです。

浦添

そっか。こないだみに来た時は何ともなかったんだけどね。おか

零

しいって、どんな風に？

浦添

たまにあるんだけど、呼びかけてるのに、全然反応しなかったり。

浦添

ほう。

零

結構大きな声で呼んでも。反応なかったりして。あと、変なこと

浦添

を言ったり。

浦添

変なこと？

零

一日に何回も「おはよう」って言ってきたり。「それさっきも言っ

浦添

たよね？」みたいな。

浦添

真希菜さんが？ お父さんじゃなくて？

零

お父さんじゃなくて。……あと、私もお父さんも話したことがな

浦添

い話題のことを話したり。

浦添

壺君が言ったんじゃないの？

零 言っていないと思う。たまに本当に何の脈絡もないことを突然発したり。

浦添 そっか。ここんとこずっと調子よかったのね。何か原因に思い当たることってある？

零 ……逆に何だと思う？

浦添 逆に？ うーん。故障かな？ ねえ真希菜さーん？

反応なし。

浦添 ねえ真希菜さーん？ おい、真希菜。なあ、母さん。

零 ね？

浦添 ……サーバーに負荷がかかってるのかな。ま、みてはみるけど。

零 お願いします。

浦添 うん。……で。

零 ？

浦添 何やってるの。

零 え？

浦添 今日デートじゃなかったっけ？ ゼロちゃん。

零 零です。

浦添 今日人と会って言ってたよね。同じ大学の男の子と。

零 うん。何で知ってるの？

浦添 何人？

零 二人で。

浦添 デートだよね？

零 視察。

浦添 しさつ？ しさつ（刺殺の手ぶり）？

零 見る方。

浦添 時間大丈夫なの？

零 まだ。

浦添 そっか。

零 十八時に、海遊館前集合だから。

浦添 デートだよな？ それ相手絶対デートって思ってるよそれ。え？

準備は？

零 あと財布持っただけ。

浦添 着替えないの？ シャワーも浴びたほうがいいよ？ とかしてたら結構もう急がないと。

零 何でシャワー？

浦添 何で？ って汗掻いてるでしょうが。

零 じゃあちよっとシャワー浴びてきます。浦添さん。壺が戻って来る前に終わるよね？

浦添 まだ帰って来ないよね。

零 バイト七時あがりのはずだから。

浦添 あ、じゃあ全然。ちよっとみてくるわ。

零 すいません。

浦添 あ、あのさ。

零 ？

浦添 ……このままでいいのかな？

零 え？

浦添 壺君って今日、十八歳になるんだよね？

零 ……。

浦添 ああ、いや、何でもない。ちょっと見て来るわ。

零 お願いします。

浦添、真希菜のサーバーがある二階朋彦の自室へ。

零 ……。

零、一階浴室へ。

2 壺、琴音

玄関の鍵を開ける音。

水沢壱がこっそり入って来て、家に誰もいないと確認。

壱
（玄関に）いいよ、入って。

琴音声 お邪魔します。

壱 どうぞ。

バイト先の後輩、岩坂琴音が入ってくる。零と浦添は、壱と琴音の存在に気づかない。

壱 あれ？ 誰もいないや。あれ？ ごめんね、いると思ったんだけど、二人つきりみたいになって。

琴音 いえ。私も手土産も何も持って来てなかったし。

壱 ううん。全然、そんな。

真希菜 あら壱君。おかえりなさい。

真希菜は声だけで姿はない。驚く壱。

壺 え？ お母さん？

琴音 あ。

真希菜 あら、お客さん？

壺 ああ、うん。同じバイト先の岩坂琴音さん。

琴音 はじめまして、岩坂琴音と申します。

声はすれど姿のない真希菜に戸惑う琴音。

真希菜 はじめまして。壺の母の真希菜です。壺がいつもお世話になって

ます。

琴音 いえ、こちらこそ。

壺 今日、バイト先行ったら、うちの店長が匿名でネットにアイドルの悪口書いたみたいで、そのアイドルのファンに身元特定されて、今夥しい数のファンに店囲まれて店開けられないからって、それ

で今日のバイトなくなったの。

真希菜 あらそう。

壺 お母さん、このこと親父には言わないでね。

真希菜 このことって？

壺 家に人連れて来たこと。

真希菜 わかったわ。

壺 外めっちゃ暑かったよ。

真希菜 暑かったでしょう。今日は今年に入って十七度目の真夏日だから

ね。

琴音 ……（ん？）。

壺 琴音さんがレゴで作ったデス・スター見たって。それで連れて

来たんだ。

真希菜 あらそう。

（琴音に）市販の奴より一回り大きいんだ。

琴音 へえ。

真希菜 デス・スターっていうのはね、映画『スター・ウォーズシリーズ』に登場する架空の宇宙要塞、のことよね。

真希菜は何処から話しかけているのかとキョロキョロする琴音。

壺 琴音さん、その辺は知ってるよ。僕より琴音さんの方がスター

ウォーズ詳しいから。

真希菜 そうね。ジョージルーカスより詳しくそうな顔してるわ。お母さんのスターウォーズ、の知識は、クロスワードパズル、で得た蘊蓄だけだから、ちゃんと映画を観た人には敵わないわね。

壺 そうだよ。(琴音に)うちのお母さん、変でしょ。

琴音 ううん。クロスワード、お好きなんですか？

真希菜 そうなの。丁度今スターウォーズのクロスワードパズルをやってたんだけど、わからない問題があるの。

壺 何？

真希菜 三文字の言葉で、惑星ホスでルークを襲った生物の名は？

琴音 ……ワンパ？

真希菜 ワンパね。ありがとう。これで残り十八個の問題も解けたので、完成したわ。

内心、啞然としている琴音。

琴音 あの、お母様何処から話しかけてるのかな？

壺 ああ……。別の場所にいるんだ。

琴音 別の場所？

壺 奈良の吉野に研究所があつて。

琴音 ？

壺 研究所で事故に遭っちゃったんだ。

琴音 事故？

壺 うん。頭に傷を負って、吉野の研究所の中にある隔離エリアから

出ることができなくなってしまうんだ。その研究所でしか作れないガスがあって、そのガスに満たされた部屋でないとお母さん、生きていけないんだ。それでうちのリビングと隔離エリアの一室とを、スカイプみたいなので音声だけ繋いでるんだよね。

真希菜

壱君、今日はいつもより心拍数があがってるわね。

壱

ええ？ そんなことないよお。

琴音

……。

壱

定番のジョーク。お母さんの。……すいません。部屋片付けるの

でちょっとだけ待っててくれますか？

琴音

うん。

壱、二階壱の部屋へ。

琴音、ひとり。リビングの置物などを見ている。

浦添、二階朋彦の部屋から戻ってくる。

3 琴音、浦添

浦添

（琴音を零と勘違いして）ゼロちゃん、お母さん電源切れてた。今入れ直したけど、やっぱり深刻なエラーかもしれないし、お母さんが人工知能だって壺君にバレないようにしようと思ったら――

琴音振り返る。

浦添

!?

浦添、零と思っていたのが知らない人だとわかり、少し動揺。
家に誰もいないと壺に説明されている琴音は、浦添が何者かわからず、やや警戒、ややきよんとしている。

浦添

え？

琴音

……。

浦添

え、誰？

琴音 あ、私、壺さんのバイトの後輩で、岩坂と申します。

浦添 はあ。

琴音 壺さんのデス・スターを見にきたんです。

浦添 壺君のデス・スターを見に来た？

琴音 普通のより大きいそうなんです。

浦添 ……。

琴音 ……あの、今の話って。

浦添 え？

琴音 お母様が人工知能だって。

浦添 ん？ え、何？

琴音 壺さんにバレないようにつて。

浦添 え？ ……ああ、うん。ドラマ。

琴音 え？

浦添 ドラマの話。水沢家みんなそのドラマに嵌ってて。壺君にちよつとでもドラマの話したら面倒臭いことになるよ。

琴音 え？

浦添 壺君まだ見てないから。「お母さん人工知能」って言ったら面倒くさくなるよ。

琴音 はあ。

浦添 一言も喋ったら駄目だよ。『24』って1シーズンが丸一日だって言っただけで、僕、一か月くらい口利いてもらえなかったから。

琴音 はあ。

浦添 ……。

琴音 ……さつき、壺さんがお母様と喋ってたんです。

浦添 ん？

琴音 壁から声がして。

浦添 壺君は何て？

琴音 お母様は別の場所、吉野？にいて。

浦添 ああ、うん。

琴音 でもお母様人工知能みたいでした。

浦添 シーっ！

琴音 え？ 壺さんのお母様、人工知能なんですか？

シャワーを終えた零がバスタオルを巻いて戻って来る。

4 琴音、浦添、零

零 誰!?

浦添 何て格好で出てくるの！

零 だって服二階にあるし。

浦添 持って来とこうよ。

零 え？ え、誰？

琴音 水沢零ちゃん？

零 ？

琴音 私、ガールスカウトで一緒だった岩坂琴音。

零 ……（記憶にない）。

琴音 野外キャンプの時にパンツ以外全部川に流された……。

零 ああ……。

琴音 壱さんと零ちゃんって姉弟？

零 何で岩坂さんがうちに？

琴音 壱さんのバイト先の後輩で。あの、お母様人工知能っていうのは

……。

零 浦添さん。どういうこと!?

浦添 ちよつと不可抗力なことが。

零 ……ねえ、お母さん。

真希菜 あら零ちゃん、今日は攻めてるわね。

零 私がシャワー浴びてる間にここでどういうやりとりがあったの？

浦添 先に服を……。

真希菜 壱君がレゴで作ったデス・スターを見せるために壱君と同じアル

バイト先の後輩の岩坂琴音さんを家に連れて来て、今部屋を片付

けている間、琴音さんが一人で待っていたら浦添さんが、琴音さんに私が人工知能だということをすっかり漏らしたの。

零 浦添。

浦添 「さん」つけて。いや。だってゼロちゃんしか家にいないはずだったし。

零 壺は？

琴音 お部屋を片付けに。呼んで来ましょうか。

零 待って！ ……二人きりにしたら壺に余計なこと話すかも。

琴音 え？

浦添 いや、流石に黙っててって頼めば。

琴音 …… (わかってなさそう)。

零 …… (ほら)。

部屋を片付けた壺がリビングへやって来る。

5 琴音、浦添、零、壺

壺 琴音さんすいません遅くなって。姉ちゃん？浦添さん？

しかも零は風呂あがり姿。

壺 （二人で）何をしようとしたの？

浦添 違うんだこれは。

壺 （琴音に）これ、姉ちゃん。

琴音 はい、実はお姉さんと私、ガールスカウトで一緒だったんです。

壺 あ、そうなんだ。二人知り合い？ ……で、浦添さん（紹介）。浦添さん、さっき話したお母さんのいる研究所の職員で、時々吉野からわざわざうちに来てきて、お母さんの体調とか報告してくれたり、お母さんからの荷物を持って来てくれたり、お世話になっている人。

浦添 はじめまして。

壱

浦添さん今日来る日だった？

浦添

え？ ああ。えっとお母さんに渡したいものがあるってゼロちゃんに言われて。

零

え？ あのそうそう。アレ。こないだの、コウモリの交尾の動画。

壱

ああアレ？ え？ ファイル便で送ったら……。そのためにわざ

わざ浦添さん忙しいのに吉野から呼んだの？

零

……。

浦添

いいのいいの。二人の顔見たかったし。……ごめん今日、壱君の好きな葛よしの葛餅、買い忘れちゃって。

壱

いいですよ。そんないつもいつも。

琴音

お母さんって人工——

浦添

痛！ 足ぐねった！ 痛てててて！

壱

え？

零

ええ？ 壱、湿布持って来て。

壱

え？ 湿布って何処？

零 金庫の中。
壺 え？ 何でそんな所に入れてんだよ。

壺、湿布を取りに。

6 琴音、浦添、零

零 （油断ならない琴音に「何言おうとしてるのよ」……。

浦添 ここは言った方がいいんじゃないかな。説得するにも事情を説明
しないと。

零 でも。

浦添 琴音さんを黙らせるには説明するしか。

零 して。

浦添 ……壺君とゼロちゃんのお母さんである真希菜さんは、僕が作っ
た「(ボソ)人工知能」なんです。

琴音

……。

浦添

本当のお母さんはゼロちゃんが五歳？ 壱君が三歳の時に出て行って。それで壱君は、お母さんがいなくなって、ちよっとおかしくなったわけ。

琴音

おかしく。

浦添

で、僕が勤めてた人工知能開発研究所って所にお父さんが来て、母親の代わりになる人工知能を何とかできないかってお願いして。

……壱君は本物の母親だって信じて、そのまま今に至ってます。

琴音

……三歳の時から？

浦添、頷く。

琴音

あの、壱さんのお母様が人工知能っていうのは――

浦添

声デカいって！

零

そのことをね、壱に絶対に言わないでほしいの。

琴音 ……でも壺さんって十八歳ですよね。それなのに知らないって言うのは……。

零 ねえお母さん。岩坂琴音さんが壺に秘密にしていることを教えて。

琴音 え？

真希菜 岩坂琴音さんは、壺君に年を十誤魔化してるわ。

琴音 え？ え？

零 嘘!? マジで？

浦添 ええええ!?

琴音 え。

零 お母さんのこと、壺に黙っててくれますよね？

琴音 今の壺さんには。

零 言わないから。

琴音 あのホントに。

零 言わないから。

琴音 ……でもどうして壺さんに本当のこと話さないんですか？ 話し

た方が。言いにくいなら、私から話しましょうか？

零 わからない人だなああ。

朋彦声 ただいま。

真希菜 あらお父さん、お帰りなさい。

7 琴音、浦添、零、朋彦

朋彦帰宅。リビングに入ると、まず零のバスタオル姿と零と一緒にいる浦添が朋彦の視界に。すぐ琴音に目が行き、

朋彦 ……おまえら。

零 お父さん。

浦添 あ、違う。

朋彦 浦添さん。

浦添 誤解です誤解！

朋彦 おまえら、いつから。

琴音

……。

朋彦

この方は？

零

……壺の彼女。

琴音

まだお付き合っているわけでは……。

朋彦

おい。何が起きてるんだ？ 零、この人は何処まで知ってるんだ？

零

お母さんのこと言った。

朋彦

何で？ 壺は？

零

今湿布取りに行ってる。……お父さんどうしたらいい？

朋彦

いいから服を着て来なさい。何でそんな格好してるんだ。

零

浦添さんがシャワー浴びて来いって言うから。

零、着替えに二階零の部屋へ。

8 琴音、浦添、朋彦

浦添 違！

朋彦 (浦添に詰め寄り) 信用してたんだぞ！

浦添 何もしてないです！ 俺何もしてないです！

朋彦 じゃあ何で家にいるんだ。

浦添 ゼロちゃんが真希菜さんの調子が悪いって言うからみにきたんです！

朋彦 だったらどうしてそんなタイミングで零がシャワー浴びてるんだ。そういうことだからだろ。

浦添 人がいるのにならないでしょうがそういう状況に！

朋彦 「そういうのがいい」って人もいるだろ。

浦添 どんだけアブノーマルなんだよ！ それよりこっち(琴音)でしょ。

朋彦 そうだ。……なあ母さん。今ここで一体何があったんだ。

真希菜 壺君がレゴで作った「市販よりひと回り大きいデス・スター」を

見せるために壺君と同じアルバイト先の後輩の岩坂琴音さんを家に連れて来て、部屋を片付けている間、琴音さんが一人で待って

いたら浦添さんが、琴音さんを零ちゃんと勘違いしてうっかり漏らしたの。

浦添。

いやその……。

この人は何処まで知ってるんだ。

言った。全部言った。

なあ母さん。琴音さんの口を封じる効果的な方法を教えてくれ。

それやった。それさっきゼロちゃんがやった。

「口が凄く臭い」って洗脳する。

……真希菜、調子悪いのか？

そうなんだけど、今のは聞き方だよ。

……。琴音さん。壺とはどういう関係なんですか。

……。えっと、私がお皿によそった御飯に壺さんがルーをかけて。

壺君のバイト先の後輩だって。

年は私の方がちょっとだけ上なんですけど。

朋彦 壺の奴。どうしてうちに入れたんだ。

浦添 まああるでしょ。十八にもなったら、女の子を自分の部屋に呼んでいろいろ何かいろいろ。

……。

朋彦 ……壺さんはさっきのアレを本当にお母さんだと——

琴音 アレって……。

朋彦 すいません。……あの、どうして本当のことを言ってあげないんですか。

朋彦 本当のことって？

琴音 お母さんのこと。

朋彦 ……壺は、事実を受け容れられないんです。だから、余計なことを言わないでほしいんです。

琴音 余計なことってお母様が人工知能って——

浦添 それだよ！ 声デカいって。何でさっきから「人工知能」だけ声でかくなるの？

琴音

……さつき壺さんはお母様は吉野の研究所にいらっしゃるって言っていました。

朋彦

壺に母親がいるって信じ込ませるためです。

琴音

どういうことですか？

朋彦

……家庭の問題ですから。

琴音

……どうして駄目なのか、わかってないとうっかり言ってしまったわ
ないか心配なんですけど。

朋彦

何で？

琴音

私バカなんです。……すいません。言ったら駄目だってちゃんど
理由がわかってたら、気をつけられるんですけど、わかってないと、
ついポロツて。それでいつも失敗して。

朋彦

……固まってしまうんです。……壺は。母親がいないとわかると。

琴音

え？

朋彦

本物の母親がこの家を出て行った時、壺は三歳だったかな、全く
動かなくなってしまうって。

琴音

……動かないってどのくらい……。

朋彦

何日もです。……ご飯も食べないし。どんどん衰弱して行って。

入院させたんですけど、点滴も駄目で。このままじゃホントにヤバいってなって。それで嘘をついたんです。お母さんはいるって。

お話できるよって。そしたら壺はその言葉に反応して。でも、家にいないってわかったらまた動かなくなっただけ。壺に母親がいるって思い込ませる方法を考えたんです。最初は真希菜が映ってるビデオを流して。でもそれも効かなくなっただけ。それで、浦添さんに相談して、人工智能に真希菜の声を取り込んで。

琴音

それでお母さんは施設にいらって？

朋彦

真希菜に身体が存在しないことを誤魔化すために。

琴音

……どうして吉野なんですか？

朋彦

……（次から次へと質問しやがって）。奈良の吉野って言うっておけば誰も詳しくないし、わざわざ調べないからバレないだろうって。

奈良県民にだって吉野の方は謎らしいし。なあ真希菜。吉野って

何もないもんな？

真希菜 そんなことないわよ。今は思いつかないけど。

朋彦 納得してもらえたかな？

琴音 動かなくなったのって、壺さんが三歳の時の話ですよね。

朋彦 ええ。……それから何度か打ち明けたんです。だけど、そのた

びに壺は精神的に不安定な状況になって。

琴音 打ち明けたのにわかってないんですか？

朋彦 自分にとって都合の悪い記憶を、なかったことにしてるんじゃない

いかと思うんです。……だから、今は打ち明けるのは諦めている

状況で。

琴音 最後に打ち明けたのは？

朋彦 何歳くらいだったかな。六歳？

琴音 え？ 壺さんもう十八歳ですよ。流石にもう大丈夫なんじゃない

んですか？

朋彦 私にとっては幾つになっても子供なんです。

琴音 それはそうでしょうけど、このまま壺さんを騙し続けるんですか？

朋彦 ……。

琴音 十八歳で本当のこと聞かされない方が不幸じゃないですか。壺さんに本当のことを話した方がいいと思いますけど。

朋彦 それはわかります。だけど、今はまだそういう状況じゃないんです！ 無理なんです。

壺が湿布を持って戻って来る。

9 琴音、浦添、朋彦、壺

朋彦 ——山口君が今すぐテレビに出るのは。

壺 ……。あれ？ お父さん。

朋彦 ただいま。

壺 何熱弁してんの。

朋彦 こちらの女性がわーって言って来て。

壺 何でこんな早かったの？ 部活は？

朋彦 今日はなしになった。

壺 これ、湿布。

浦添 おお（頼んだことを忘れていたことを誤魔化し）、ありがと。

朋彦 壺。

壺 え？ 何？

朋彦 家に知らない人を連れて来たたら駄目だって言ってたろ。

壺 ……今言わなくてもいいだろ。知らない人じゃないよ。何で家に

人連れて来たたら駄目なんだよ。

朋彦 前にも説明しただろ。お母さんの病気のことが世間に知られたら

マスコミが騒ぐだろ。そしたらお母さん、ゆっくり静養できなく

なるかもしれないんだぞ。いいのか？

！

琴音 琴音さん言いふらしたりする人じゃないよ。絶対バレないって。

朋彦 週刊誌をみくびるな。

壺

……。

朋彦

もっと想像力を働かせないと、お母さんを守れないぞ。

壺

わかってるよ。

朋彦

何も付き合うなど言ってるわけじゃない。父さん大いに歓迎だよ。ただ、壺と琴音さんは上司と部下の関係だろ。

壺

先輩と後輩だよ。

朋彦

一緒なんだよ。目上の人に「家においで」って言われたら断れないだろ。二人がそうじゃないにしても、これをパワハラだって思う人達もいるってことだ。だから外で交際する分には構わないけど、家に呼ぶのはマズいって言ってるんだ。……山口君の話はそういう話をしてたんだ。

零、二階の自室から降りて来る。センスの悪い服に着替えている。

10

琴音、浦添、朋彦、壺、零

壱 姉ちゃん。

琴音 零ちゃん。

浦添 何その服（ダメ出しの意味）。

零 え？

浦添 それでデート行くの？

朋彦 デート？

壱 琴音さん、外行って話しますか。

琴音 私もお話したいことがあるんです。

零浦 え!?（まずい）

インターホンが鳴る。

朋彦 壱。

壱、玄関へ。

朋彦 ふう。

琴音 ……あの。

朋彦 いやだから。

琴音 お手洗いお借りしてもいいですか？

朋彦 え？ ああ。そこ左行って右側。

琴音、トイレへ。

龍田声 水沢先生の教え子だった龍田と申します。先生はご在宅でしょう

か。

朋彦 !?

朋彦、玄関へ。

11 浦添、朋彦、壺、零、龍田

朋彦声 おおー！ 忠敬！ どうした!?

龍田声 先生、ご無沙汰してます。ちょっとご挨拶に。

朋彦声 そうか。そんなトコに突っ立ってないで上がれ上がれ。

朋彦、龍田を連れて戻って来る。壺も戻って来る。

朋彦 よく来たなあ。

零 ……お父さん（何で家に入れるの）。

朋彦 忠敬、住所知らないのにどうしてうちが？

龍田 年賀状で。

朋彦 ああ、そっか。毎年送ってくれてるよな。毎年犬のイラストを。

朋彦 元氣そうじゃないか！

龍田 お陰様で。先生も変わらないですね。

零 お父さん。

朋彦 ああ、教え子。俺の元教え子。

龍田 龍田忠敬です。先生には高校時代に随分お世話になりました。

朋彦 娘の零、息子の壱だ。

零 こんにちは。

龍田 零ちゃん、こんな大きくなったんですか。

朋彦 会ったことあったか？

龍田 先生、部活の練習試合に連れて来られてたじゃないですか。その時小学校で試合やってたんですけど、一日中校庭ののぼり棒で遊んでましたよね。お幾つですか？

零 二十歳になりました。

龍田 ええ。

朋彦 忠敬は幾つになった。

龍田 三十二です。

朋彦 そんななるか。

龍田 十五、六年前？ ですかね。

朋彦 三十二かあ。

龍田 こないだ、同窓会があったんですよ。

朋彦 あれ、行けなくて悪かったな。盛り上がったらしいな。

龍田 そうなんですよ。聳田そひえたとアフガ西にしがまた大喧嘩して。

朋彦 相変わらずだなあ。

龍田 ところで、奥さんっておられるんですか？

朋彦 ……壺、お茶淹れてくれないか。

零 私も壺のお茶飲みたい。

壺 え？ ああ。

壺、お茶を淹れにキッチンへ。

12 浦添、朋彦、零、龍田

朋彦 ええと、何だっけ。そうそう。嫁、アレなんだ。今日出かけるって言っ

てたような。

龍田 え？ お会いしたかったのに。じゃあまあ、待たせてもらっても

いいですか？

朋彦 何で？

龍田 なかなか来られないんで。

朋彦 いや、今日確か遅いって。

龍田 お会いしたことないんで、ご挨拶したくて。サトミさんでしたっ

け？

朋彦 一文字もカスってないよ。相変わらずだなあ。真希菜。

真希菜 何ですか、お父さん？

朋彦・零・浦添 !?

龍田 奥さんいるじゃないですか。

朋彦 ああ。

龍田 びっくりしますよね。いないと思った時にいた時って。

朋彦 え？ ああ。

龍田 いやあ、よかった。今日奥様にご挨拶できないことには帰れない

ところだったので。

琴音、トイレから戻ってくる。

13 浦添、朋彦、零、龍田、琴音

朋彦 ……うちの家内だ。

琴音 !?

龍田 おお、奥さん！ ずっとお会いしたいと思ってたんです！ あの

頃は本当にありがとうございました！

琴音、事情がわからず、朋彦を見る。

龍田 奥さんお若いですね。失礼ですけど、お幾つなんですか。

琴音 えっと。

朋彦 四十二だったよな。

琴音

！

龍田

ええ？（零と）姉妹みたいですわね。

朋彦

美魔女だろ。

龍田

……先生、今日お伺いしたのは、折り入ってご相談がございました。

朋彦

何だ？ あらたまって。

琴音、ソファーに座る朋彦の隣に座らされる。

続く。